

# ロジスティックス 東西南北

日本気象協会

## 天気予報で物流を変える 「eco×ロジ」マークを制定



「eco×ロジ」マーク

一般財団法人の日本気象協会（本社・東京都豊島区。石川裕二会長）は、2月13日に「eco×ロジ（えころじ）」マークを正式スタート、「天気予報で物流を変える」という試みを加速させる。

この取り組みは2014年度から始めているものだが、「明日は雨だから、少々早めに出発しよう」と言うように、単に輸送に直結する事柄を対象としているのではない。例えば、「おでん」三寒四温の春先、経験値や過去のデータに従つて「明日は寒いから売れそうだ」と、コンニャクや大根、玉子を余分に仕入れて煮込み、準備万端。しかし

「一夜明けると「春うらら」のよいお天氣で売れ行きはさっぱり。むしろソフトクリームが品切れ状態に。それで「廃棄物」に。実にもつたない話だ。」

つまり、結果的に不要な品物（売れなかつた商品）を運び、そしてこれが廃棄物となつて、再び処理場へと運ぶという「物流」がある意味ムダとなるわけである。

換言すれば、高精度でかつピンポイントの天気予報を活用すれば、「ムダな物流」を極限まで排除できる、と言う発想。ガソリンや軽油の消費削減にもつながりCO<sub>2</sub>削減にも直結する。

だが、日本気象協会が目指す「1丁目1番地」は、実はここでない。「食品ロスの極小化」が究極の目標だ。前述のように、食品には「賞味期限」があり、特に生鮮食品や、調理済で陳列された商品は、概して長期保存がきかない。期限切れで捨てられる、いわゆる「食品ロス」は国内で年間500～800万t。これは、世界の年間食料援助料の何と2倍に達する。

こうした矛盾を改善するためにも、同協会は動き出したのである。ちなみに、経産省の補助事業として、2014年度から進めて来たエネ物流プロジェクトでは、天気予報を駆使した需要予測で、食品ロスの20～30%削減とモーダルシフトを推進、CO<sub>2</sub>を48%削減することに成功している。

「eco×ロジ」マークは、同プロジェクトの大切な「食べ物」を無駄にしない取り組み。同協会は、物流・流通や食品関連に限らず、あらゆる企業・団体に賛同を呼びかけている。

エクトのまさに発展型で、「商品需

要予測の情報を基に生産、配送、在庫管理等を行つている」企業・団体であるとの意思表明もある。

